

4 島しょ地域 Islands

4-1 土地利用面積 Land Area by Use

「島しょ地域約33,465haのうち、
森林・原野が約28,651ha」

島しょ地域の全域・町村別の土地利用分類ごとの面積を表4-1に示す。

なお、町村の面積はポリゴン集計により求めたもので、一般に使用されている行政面積とは必ずしも一致しない。

島しょ地域全域で33,465.3haであり、そのうち森林・原野を合計すると、28,650.6haである。平成24年と比較すると、原野や未利用地等が増加しており、農用地及び森林などが減少している。

平成29年土地利用面積(島しょ地域全域・町村別)(表4-1)

Land Area by Use (2017): Municipalities in the Islands (Table 4-1)

単位(ha)

	合計	L-1	L-2		L-3	L-4	L-5		L-6	L-7	L-8	L-9
		宅地	その他	(屋外利用地)	公園運動場等	未利用地等	道路等	(道路)	農用地	水面河川水路	森林	原野
全域(H29) All Area 2017	33,465.3	1,206.4	385.4	(283.2)	234.9	174.5	1,055.0	(734.8)	1,693.1	65.5	21,883.8	6,766.7
全域(H24) All Area 2012	33,461.4	1,242.7	354.9	(255.4)	213.2	142.7	1,036.9	(724.6)	1,806.6	61.4	21,954.6	6,648.4
大島町 Oshima	9,078.4	456.2	103.5	(102.0)	89.6	48.6	297.7	(216.4)	332.0	14.8	5,807.5	1,928.6
利島村 Toshima	403.9	14.5	3.6	(3.6)	2.9	0.3	17.4	(11.3)	9.5	0.1	273.7	81.9
新島村 Niijima	2,709.3	123.2	93.6	(11.8)	29.6	14.1	104.1	(63.3)	67.9	0.8	1,910.1	365.9
神津島村 Kozushima	1,831.3	47.1	6.5	(5.9)	9.8	5.4	79.8	(34.6)	192.7	3.8	1,005.0	481.1
三宅村 Miyake	5,523.4	142.2	87.8	(87.8)	6.8	22.9	158.8	(116.2)	92.5	27.0	2,393.1	2,592.1
御蔵島村 Mikurajima	2,034.2	9.3	1.3	(1.3)	3.2	1.1	19.0	(15.1)	28.8	0.6	1,706.1	264.8
八丈町 Hachijo	6,914.0	341.0	49.9	(45.9)	68.1	65.0	308.1	(217.4)	836.0	8.9	4,937.7	299.3
青ヶ島村 Aogashima	594.8	13.1	5.2	(5.2)	1.2	5.5	13.2	(10.9)	59.0	0.1	338.6	158.8
小笠原村 Ogasawara	4,376.0	59.7	33.9	(19.8)	23.7	11.6	56.9	(49.9)	74.7	9.3	3,512.2	594.0

(注1) L-2その他は、土地利用分類の屋外利用地とその他の合計

(注2) L-2及びL-5の()は内数

4-2 土地利用比率 Land Use

「森林及び原野が約86%を占める」

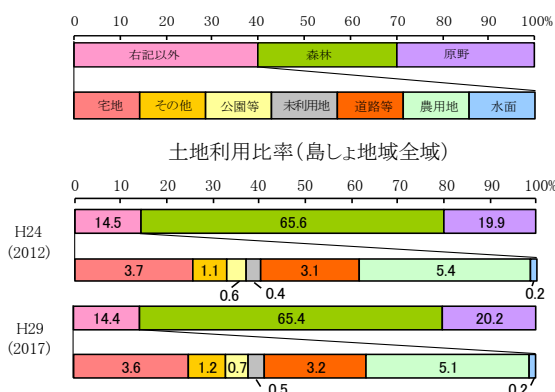
土地利用分類ごとの全土地利用面積に対する構成比を示す。

(全域)

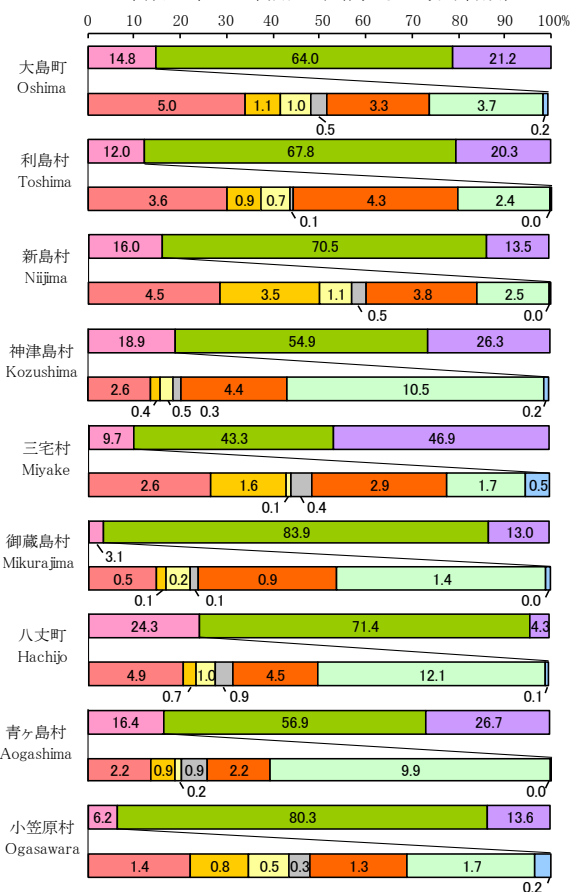
森林が65.4%、原野が20.2%を占めていて、宅地は3.6%となっている。平成24年と比較すると、原野が0.4ポイント増加し、農用地が0.3ポイント、森林が0.2ポイント減少している。

(町村別)

宅地は大島町の5.0%が最も高く、八丈町、新島村が続いている。農用地は八丈町の12.1%が最も高くなっている。



平成29年土地利用比率(島しょ地域町村別)



4-3 宅土地利用比率 Building Land Use

「住宅用地は約54%」

土地利用のうち、宅地のみを対象とし、建物用途別に宅地を5分類して、その構成比を示す。

BP	BC	BR	BI	BA
公 共	商 業	住 宅	工 業	農 業

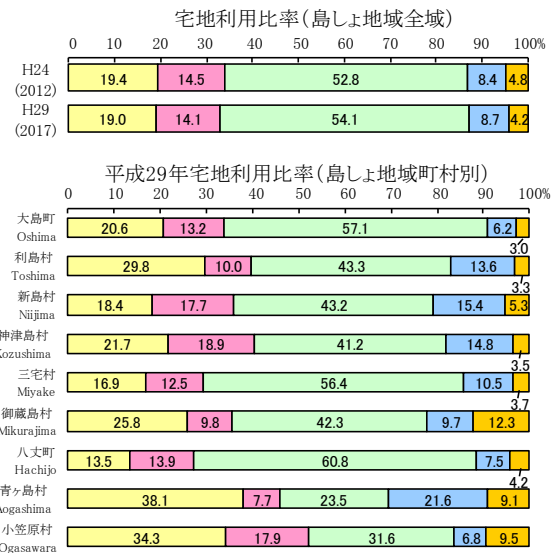
(全域)

住宅用地が54.1%を占め、公共用地が19.0%、商業用地が14.1%でこれに続いている。

平成24年度と比較すると、住宅用地が1.3ポイント、工業用地が0.2ポイント増加し、農業用地が0.7ポイント、公共用地及び商業用地が0.4ポイント減少している。

(町村別)

八丈町、大島町及び三宅村では住宅用地が5割を超えている。青ヶ島村では公共用地が38.1%で高くなっている。



4-4 建物用地利用比率 Building Type

「独立住宅用地は約50%と増加」

宅地を建物用途別に15分類してその構成比を示す。

(全域)

独立住宅用地が49.7%であり、以下、教育文化施設用地が10.3%、宿泊遊興施設用地が6.2%で続いている。

平成24年度と比較すると、独立住宅用地、供給処理施設用地、スポーツ・興行施設用地、集合住宅用地、専用工場用地などが増加している。一方、教育文化施設用地、宿泊・遊興施設用地、農林漁業施設用地などが減少している。

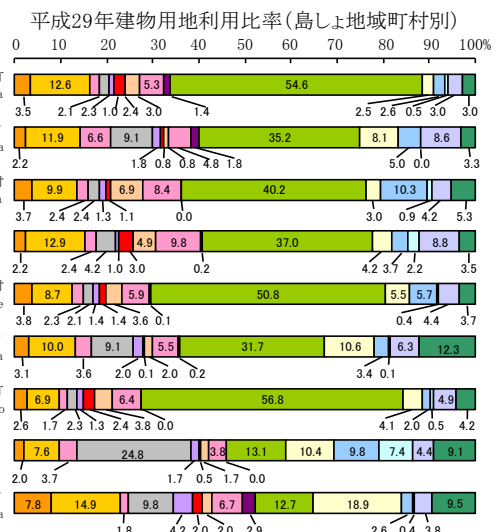
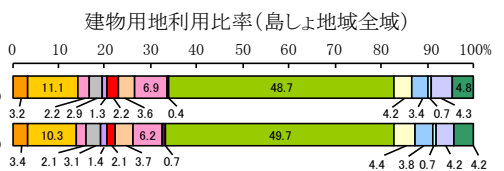
(町村別)

神津島村では宿泊・遊興施設用地の割合が9.8%となっている。

小笠原村では独立住宅用地が12.7%と低く、集合住宅用地が18.9%と高い値となっている。

青ヶ島村では供給処理施設用地が24.8%と高い値になっている。

BP-1	BP-2	BP-3	BP-4	BC-1	BC-2	BC-3	BC-4	BC-5	BR-1	BR-2	BI-1	BI-2	BI-3	BA
官 公 庁 施 設	教 育 文 化 施 設	厚 生 医 療 施 設	供 給 処 理 施 設	事 務 所 建 築 物 設	専 用 商 業 施 設	住 居 併 用 施 設	宿 泊 ・ 遊 興 施 設	ス ポ ー ツ ・ 興 行 施 設	独 立 住 宅	集 合 住 宅	専 用 工 場	住 居 併 用 工 場	倉 庫 運 輸 関 係 施 設	農 林 漁 業 施 設



4-5 建蔽率 Building Coverage Ratio

「建蔽率は約25%（ネット）」

(全域)

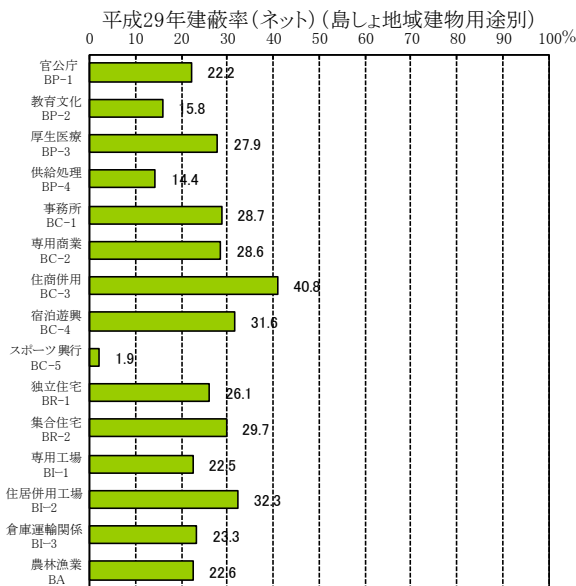
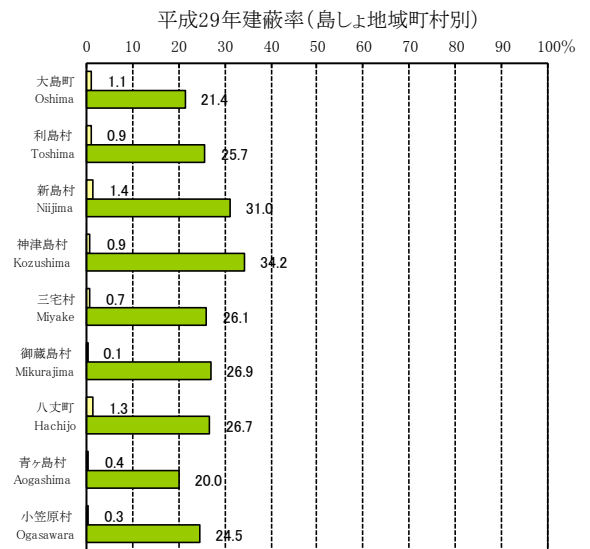
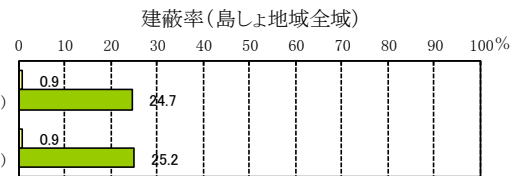
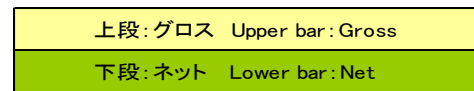
全建物についての建蔽率は、ネット（18 ページ参照）で25.2%である。

建物用途別にネットの建蔽率を見ると、住商併用施設が40.8%で最も高く、住居併用工場32.3%、宿泊・遊興施設が31.6%、集合住宅が29.7%と続いている。

一方、スポーツ・興行施設は1.9%と低い値になっている。

(町村別)

ネット建蔽率は、神津島村が34.2%、新島村が31.0%、御蔵島村が26.9%と高くなっている。



4-6 容積率 Floor Area Ratio

「容積率は約33%（ネット）」

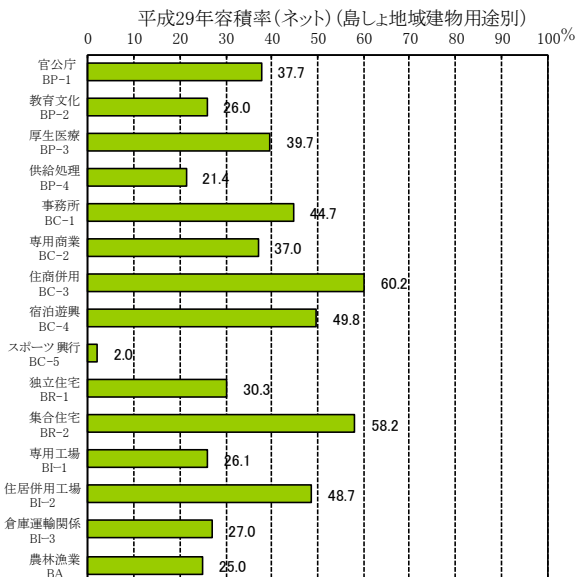
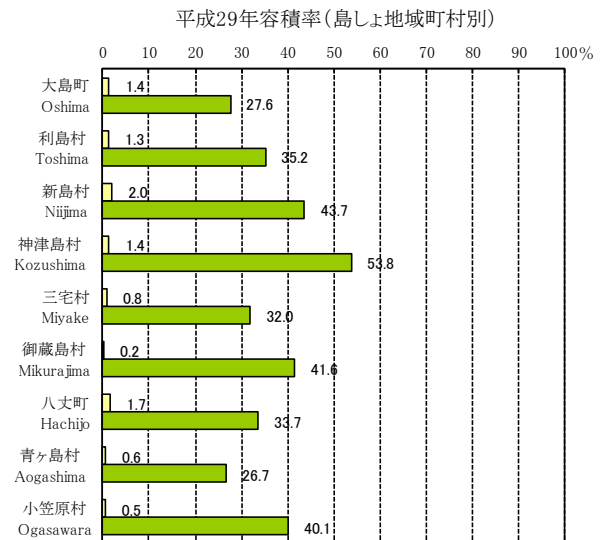
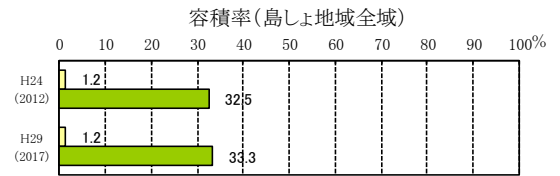
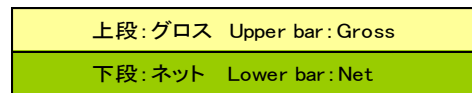
(全城)

全建物についての容積率は、ネット（21ページ参照）で33.3%である。

建物用途別にネットの容積率を見ると、住商併用施設が60.2%と最も高く、集合住宅が58.2%、宿泊遊興施設が49.8%で続いている。

(町村別)

ネットの容積率は、神津島村が53.8%と最も高く、次いで新島村、御蔵島村、小笠原村となっており40%を超えている。



4-7 平均階数 Average Number of Building Floors

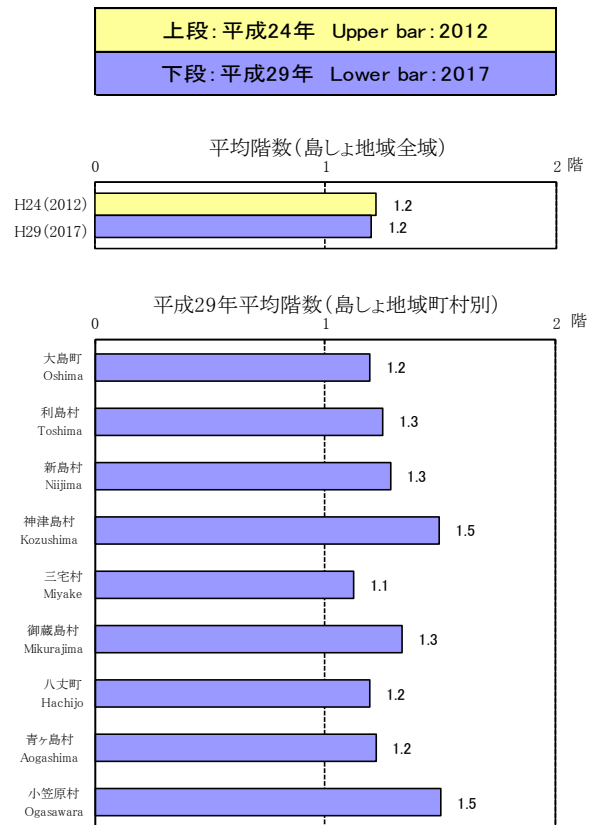
「平均階数は1.2階で、平成24年から横ばい」

(全域)

建物の平均階数は1.2階となり、平成24年から横ばいとなっている。

(町村別)

神津島村及び小笠原村が1.5階で最も高く、次いで利島村、新島村、御蔵島村が1.3階となっている。三宅村が1.1階で最も低くなっている。



4-8 建築面積比率 Building Area by Building Type

「建築面積の約5割が独立住宅」

建物の建築面積の総計を、建物用途別に15分類し、その構成比を示す。

(全域)

独立住宅が51.5%で最も高く、宿泊・遊興施設が7.8%、教育文化施設が6.5%と続いている。集合住宅は5.2%である。

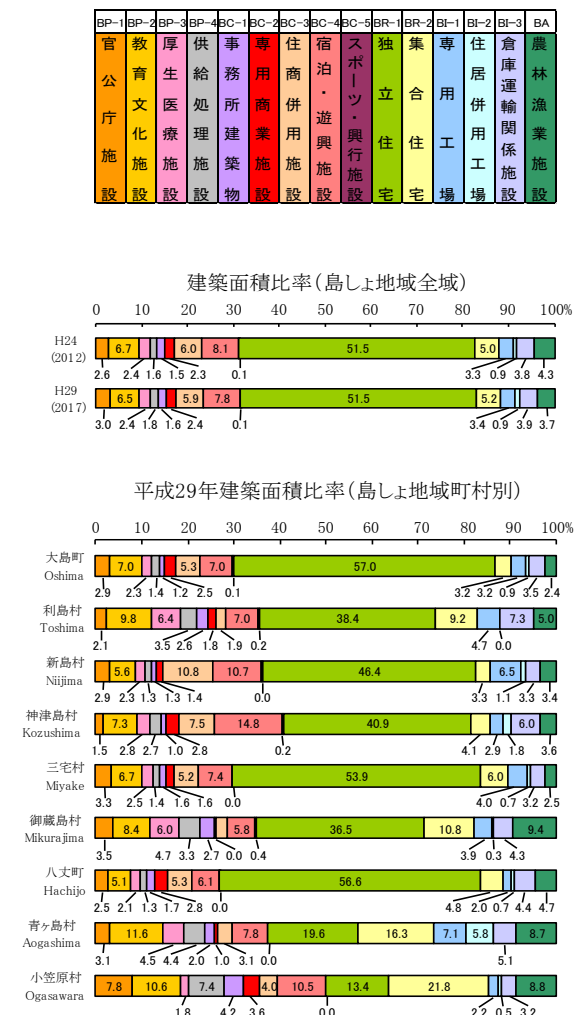
平成24年度と比較すると、官公庁施設、供給処理施設、集合住宅などが増加している。一方、農林漁業施設、宿泊・遊興施設などが減少している。

(町村別)

独立住宅は大島町が57.0%で最も高く、八丈町及び三宅村でも5割を超えている。

また、集合住宅は小笠原村が21.8%で最も高く、青ヶ島村の16.3%がそれに続いている。

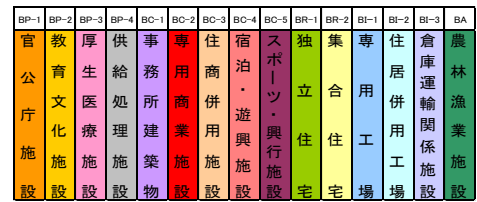
宿泊・遊興施設は、神津島村が14.8%で最も高く、農林漁業施設は、小笠原村が8.8%で最も高くなっている。



4-9 延べ面積比率 Total Floor Area by Building Type

「延べ面積の約45%が独立住宅」

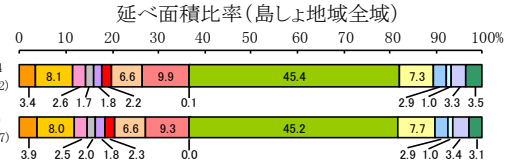
建物の延べ面積の総計を、建物用途別に15分類し、その構成比を示す。



(全域)

独立住宅が45.2%で最も高く、宿泊・遊興施設が9.3%、教育文化施設8.0%、集合住宅7.7%、住商併用建物6.6%と続いている。

平成24年度と比較すると、官公庁施設、集合住宅、供給処理施設などが増加している。一方、宿泊・遊興施設、農林漁業施設などが減少している。

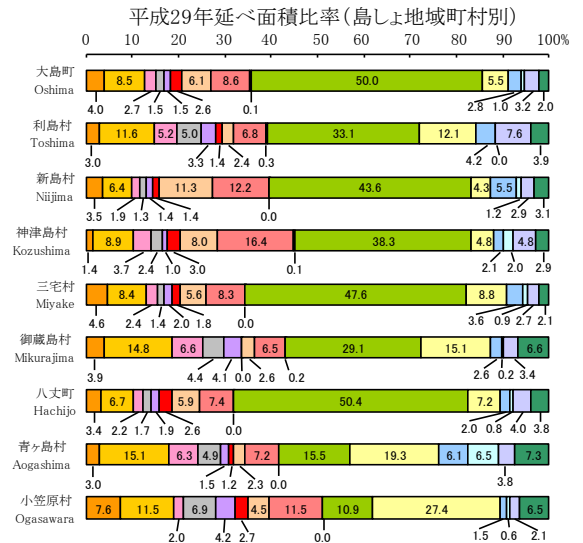


(町村別)

独立住宅は八丈町が50.4%で最も高く、大島町50.0%、三宅村47.6%、新島村43.6%の順になっている。

集合住宅は小笠原村が27.4%で最も高く、青ヶ島村の19.3%、御蔵島村の15.1%がそれに続いている。

宿泊・遊興施設は、神津島村が16.4%で最も高く、農林漁業施設は、青ヶ島村が7.3%で最も高くなっている。



4-10 不燃化率 Ratio of Fireproof Buildings

「建物の約36%が不燃化 (建築面積ベース)」

全建物に対する耐火造及び準耐火造建築物の占める割合を示す。

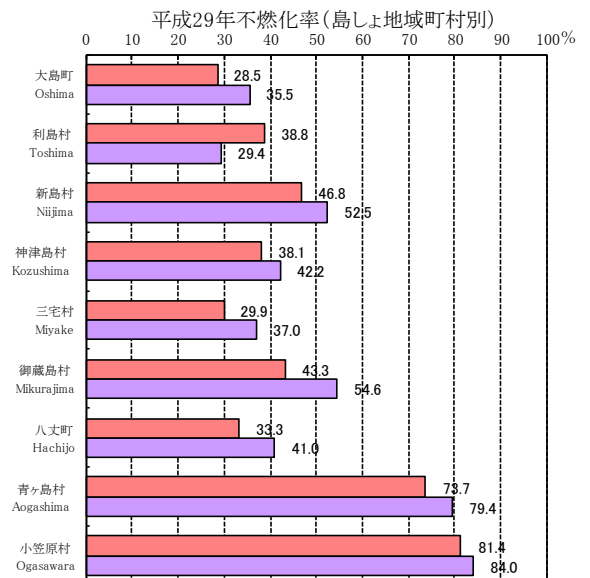
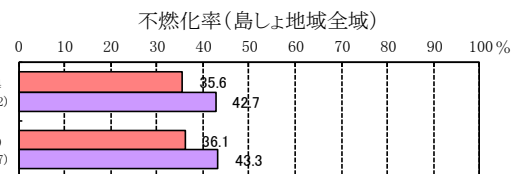
(全域)

建築面積ベースで見ると、不燃化率は36.1%となっている。平成24年と比較すると、0.5ポイント増加している。

また、延べ面積ベースで見ると、43.3%であり、平成24年と比較すると0.6ポイント増加している。

(町村別)

小笠原村が、建築面積ベース81.4%、延べ面積ベース84.0%と極めて高くなっている。青ヶ島村も、建築面積ベース73.7%、延べ面積ベース79.4%とこれに次いで高い値となっている。



4-1-1 建物構造比率 Building Construction Type

「木造が約45%、耐火構造が約24%
(建築面積ベース)」

全建物についての構造別の構成比を示す。

(全城)

建築面積ベースで見ると、木造が45.1%で最も高く、以下耐火造24.1%、防火造18.7%、準耐火造12.1%の順となっている。

平成24年と比較すると、防火造が1.1ポイント、耐火造が0.3ポイント、準耐火造が0.2ポイント増加した一方、木造が1.7ポイント減少している。

また、延べ面積ベースでは、木造が37.7%で最も高く、次いで耐火造が31.1%、防火造が18.9%、準耐火造が12.3%の順となっている。

平成24年と比較すると、防火造が0.9ポイント、耐火造が0.5ポイント、準耐火造が0.2ポイント増加した一方、木造が1.6ポイント減少している。

(町村別)

建築面積ベースで見た耐火造の割合は、青ヶ島村が53.4%で高い値となっている。

延べ面積ベースで見た耐火造の割合でも、青ヶ島村が62.5%と高く、小笠原村55.9%、御蔵島村45.5%がこれに続いている。

BS-1	BS-2	BS-3	BS-4
耐火造	準耐火造	防火造	木造

